

平成 24 年 5 月 19 日

しろみさいにしこふん

白味才西古墳・現地公開資料

大山崎町教育委員会

調査地 大山崎町字大山崎小字白味才地内

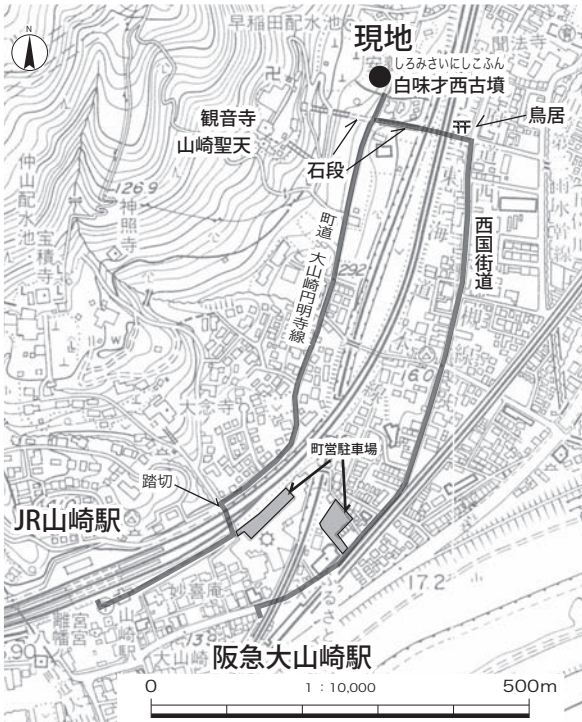
調査期間 平成 24 年 2 月 13 日～ 5 月下旬（予定）

調査面積 約 240 m²

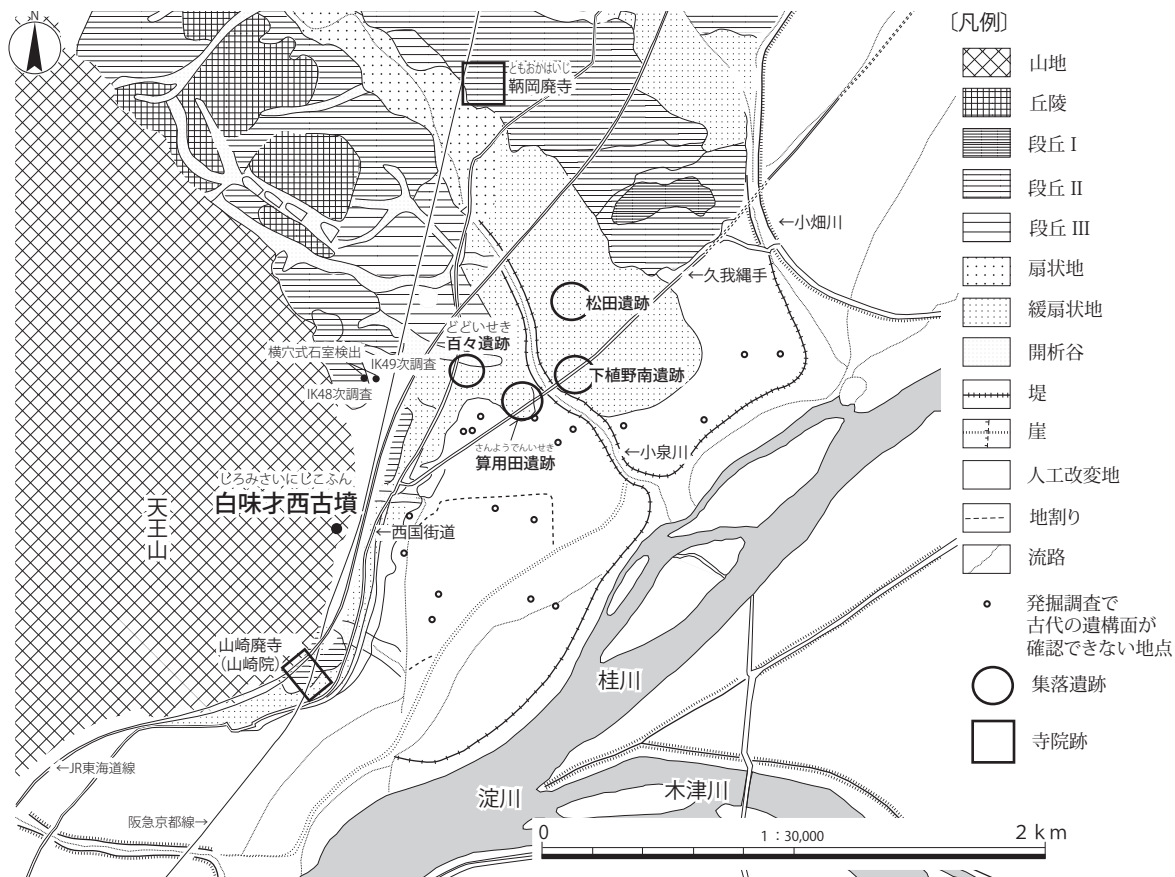
調査成果

大山崎町教育委員会では、字大山崎小字白味才地内において、開発行為に伴う事前調査として、白味才遺跡の発掘調査を実施しております。この調査では、横穴式石室の埋葬施設を有する古墳を検出いたしました。古墳は、所在の小字名と位置関係から「白味才西古墳」と命名いたしました。

古墳は、石室内から出土した土器の年代から、7 世紀中頃（約 1350 年前）に築造されたことがわかります。一辺約 10 メートルの規模を有する方墳に想定されます。横穴式石室は、全長約 5.7 メートルの規模を有し、この時期のものでは、比較的大きな規模に位置付けられます。おそらく、この古墳は、現在の大山崎町一帯に相当する範囲を治めた有力者の墓に想定されます。



第 1 図 白味才西古墳の位置



第 2 図 飛鳥時代の集落遺跡と古墳の分布

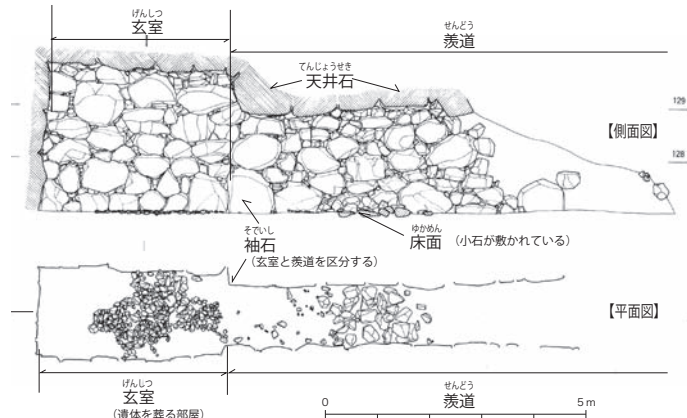
この時期の集落遺跡は、小泉川一帯に所在しています（第 2 図参照）。百々遺跡、算用田遺跡、松田遺跡、下植野南遺跡などの遺跡名で知られるこれらの集落遺跡は、扇状地上に立地し、古墳時代前期や中期から継続する居住域です。白味才西古墳は、これらに住む人たちによつての造営されたことが想定されます。

一般的に 7 世紀は、飛鳥時代といわれますが、横穴式石室を有する古墳造営も各地で継続します。白味才西古墳が築かれた 7 世紀中頃は、その最終段階にあたります。3 世紀末頃より始まった古墳造営の時代は、この時期にほぼ終わりを迎えます。また、上記の集落遺跡もこの時期を境に消滅します。かわつて、7 世紀後半には、寺院造営が活発化します。周辺では、^{ともおかはいじ}鞍岡廃寺や山崎廃寺の存在が知られます（第 2 図参照）。

白味才西古墳が築かれた 7 世紀中頃は、こうした時代の変革期でもあります。



写真 1 墳丘全景（南東から）



第 3 図 横穴式石室の構造と各部の名称（京都市大枝山 21 号墳）

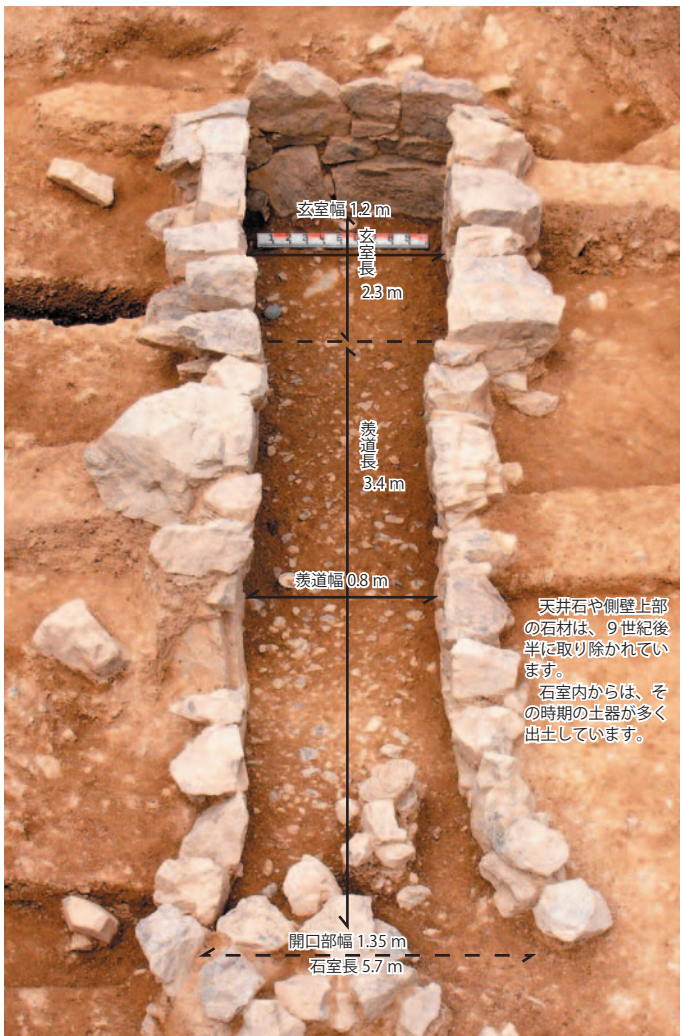


写真 2 横穴式石室の全景



写真 3 玄室内



写真 4 側壁の石材構築状況